

平成19年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

事業名	「千葉県仕事の学び場」事業		
法人名	社団法人千葉県専修学校各種学校協会		
代表者	会長 秋葉 英一	担当者 連絡先	二階堂 卓寿 043-243-3147
<p>1. 事業の概要</p> <p>高等学校生、中学校生が具体的な職業についての理解を深めるために、さらに生徒それぞれが確実な「就労感」を育成し、専門学校が実施している職業教育の一端を経験していただくため千葉県下の専門学校において職業体験講座(3日間 午前・午後)を開設する。</p> <p>講座企業・施設等での実習等をおこなうことで職業教育を体験するのも一方法と思えるが、そのような場では教育的な配慮も少ないために、系統だった基礎的な知識・技術・技能を持ち得ない中での実施となるために、得られるものも少ないと思われる。専門学校を利用した職業教育の体験講座は、職業の実際的な内容を知り、体系的な体験するだけではなく、その業界全体の仕事の内容を知ることが目標としている。</p> <p>職業体験講座の実施を希望する協会加盟の専門学校、各種学校に協会が呼びかけ、実施校を募った。その取りまとめを協会がおこない、開講講座一覧の冊子を発行し、県下の高等学校進路指導部を通じて配布して、受講する高等学校生を募集し、各専門学校にて職業体験講座を実施した。</p>			
<p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>専門学校が実施している職業教育の一端を、高等学校生、中学校生が具体的な職業についての理解を深めるために、さらに生徒それぞれが確実な「就労感」を育成するために、実施を希望する協会加盟の千葉県下の専門学校及び各種学校 75 校に協会が呼びかけ、実施校を募った。その結果、23 校 27 講座の応募があり、開設した。</p> <p>参加応募者は 32 高等学校より 180 名であったが、欠席者もあり最終的には 146 名であった。講座もすべて開講したわけでもなく、受講生がいなく不成立であった講座が 3 講座、当日欠席のため開講できなかった講座が 1 講座ある。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>講座実施終了後に、プログラム実施校(専門学校)担当者、受講生を送り出した高等学校担当者及び受講生にアンケートを実施した。結果として事業の目的である「就労感育成」は成功したものと見えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プログラム実施校(専門学校)担当者 <p>83.3%が目的である「就労感育成」を達成できたと思うと回答を、91.7%の受講生が理解したであろうと回答している。</p> ● 受講生を送り出した高等学校担当者 <p>95.7%もが「就労感育成」の目的に沿った事業であったとの回答を、91.3%が受講した結果、受講生が理解したとの回答を、95.7%が受講生の「就労感育成」に役立ったと思うとの回答を得た。</p> ● 受講生 			

91.3%が参加して良かったと回答を、96.8%が将来の仕事を考える上で役に立ったと回答をしている。

以上のアンケート結果により、事業の目的とした「就労感育成」は、受講生が少ない、不成立の講座があるなどの問題はあつたものの、達成されたものとする。

③今後の活用

3日間(午前・午後)の実施であつたが、単なる体験学習だけでは不満足である。実際に磨かれ系統だったカリキュラムになっているのか検証が必要であらうと考えている。実際に就職する企業、施設等がどのような人材を抱えて運営されているのかなど、職場での人材配置、それらの人材の必要とされている知識・技能・技術などの理解も必要とする。就職する業界の動向等も理解しておく必要がある。それらをどのように講座実施校に伝え、具体的なものとしていくことが必要であらう。

最終的に、5日間の講座を考えている。そして、教育庁とも相談して高等学校、中学校の単位のひとつとして認めていただくように活動したい。そのためには、カリキュラムを磨くことが先決であるが、第1日目には何か良いテキストを用意して企業・施設にはどのような人から成り立っているのか、また業界の動向などを理解させるための1日とし、最終日には企業等の実際の現場見学を行い、より確実な職業への理解を含めていくことを実現したいと考えている。

④次年度以降における課題・展開(今後の課題、改善点など)

単に体験学習だけでないように系統だったカリキュラムを磨くことを講座開設校に求めたい。まずは、最終日に実際の企業・施設見学を実施していただくことを求めていきたい。第1日目の利用法も研究を進めたいと思っている。

高等学校側の多大なる協力により成立している事業なので、さらに高等学校にご理解いただけるように努力したい。高等学校等の単位として考えるならば、教育庁の理解とともに、早期に開設講座を講評する必要がある。準備を早めていくことも必要とならう。

本年度は講座開設運営は専門学校で完全なボランティアで実施されている。県のご理解もあり、実施する学校にはそれなりの補助もいただけたので、予算の利用を切り分けて、齟齬の無いように実施することとならう。

3. 事業の実施に関する項目

①職業体験講座、講演会の実施

仕事の学び場申込・受講者数一覧

No.	プログラム名	学校名	日程	申込者数、受講者数
自動車整備				
01	自動車を総合的に学ぼう	日本自動車大学校	8/8～10	9名、5名
02	自動車整備業界と自動車整備の仕事について	中央自動車大学校	7/11～13	2名、2名
03	メカニックの仕事	専門学校千葉県自動車大学校	8/7～9	2名、2名
建築				
04	建築・インテリア分野の体験授業	国際理工専門学校	8/1～3	6名、6名
コンピュータ				

05	Webデザイン・プログラミングの体験授業	国際理工専門学校	8/1～3	8名、8名
06	コンピュータネットワークとセキュリティ技術体験	船橋情報ビジネス専門学校	7/31～8/2	6名、5名
動物				
07	動物分野の仕事とは	東京動物専門学校	7/25～27	19名、17名
理容美容				
08	美容は美しく奥深く楽しい	パリ総合美容専門学校	8/7～9	不成立
09	理容師の仕事の本質を知ろう	千葉理容専門学校	8/6～8	1名、0名
10	総合的な美容の仕事を学ぼう	ユニバーサルビューティーカレッジ	7/25～27	15名、12名
11	美容の面白さを知ろう	千葉美容専門学校	7/27,30,31	19名、17名
保育				
12	「親子で遊ぼう夏休み」保育講座での体験	千葉女子専門学校	7/23～25	8名、5名
13	保育士の職業理解	成田国際福祉専門学校	8/8～10	14名、13名
福祉				
14	介護福祉士への道	京葉介護福祉専門学校	8/8～10	21名、15名
15	介護の楽しさを学んでみよう	松山学園松山福祉専門学校	8/1～3	7名、7名
16	一人ひとりの思いに沿った介護	成田国際福祉専門学校	8/8～10	6名、4名
ビジネス				
17	経営シミュレーションゲームでビジネス感性を磨く	千葉情報経理専門学校	8/23～25	不成立
18	感謝される仕事病院事務職員	千葉情報経理専門学校	8/1～3	2名、2名
19	ネットワークの世界を体験しよう	千葉情報経理専門学校	7/30～8/1	3名、3名
20	航空業界ガイドランス[A日程]	成田航空ビジネス専門学校	7/23、24、8/17	6名、4名
21	航空業界ガイドランス[B日程]	成田航空ビジネス専門学校	8/1、2、17	5名、4名
22	医療事務担当者としての仕事の理解	成田国際福祉専門学校	8/8～10	4名、3名
公務員				
23	公務員って何だろう？—公務員の職業理解—	大原簿記法律専門学校津田沼校	8/1～3	6名、6名
ファッション				
24	子供物ゆかたの製作	藤工房和裁学院	7/30～8/1	2名、1名
25	ネットショップ運営方法実習とソーイング、ピンワーク、ヘア・メイクの実習	瀧澤学園千葉専門学校	7/31～8/2	不成立
26	ファッション業界研究とベスト又はビスチェ縫製	市川ドレスメーカー専門学校	7/24～26	1名、1名
27	ファッションビジネス人材養成の授業体験	船橋ファッション&ビジネス専門学校		

受講生派遣高等学校名(申込者数)

柏市立柏高等学校(1)、千葉県立船橋北高等学校(8)、秀明八千代高等学校(2)、千葉県立佐原白楊高等学校(3)、千葉県立松戸高等学校(1)、木更津総合高等学校(4)、千葉県立佐倉東高等学校(16)、千葉県立千葉商業高等学校(3)、千葉県立市川北高等学校(1)、千葉県立実籾高等学校(5)、聖進学院 千葉校(1)、中山学園高等学校(6)、千葉県立銚子水産高等学校(2)、千葉県立成田西陵高等学校(4)、千葉県立松戸馬橋高等学校(8)、千葉県立津田沼高等学校(5)、千葉県立君津商業高等学校(4)、千葉県立船橋旭高等学校(4)、千葉県立船橋二和高等学校(1)、千葉県立岬高等学校(22)、千葉県立流山東高等学校(3)、千葉県立鎌ヶ谷西高等学校(2)、千葉県立千葉高等学校(定時制)(3)、千葉県立浦安高等学校(7)、千葉県立八千代東高等学校(22)、千葉県立浦安南高等学校(1)、千葉県立八街高等学校(6)、千葉県立松戸矢切高等学校(7)、千葉県立匝瑳高等学校(8)、東葉高等学校(2)、千葉萌陽高等学校(16)、千葉県立松戸南高等学校(2) 計180名

参加者の反応

プログラム実施校担当者(24プログラム)

- 1 本事業は高等学校生の「就労感育成」を目的としています。プログラムを実施した結果、目的は達成できたと思いますか。

A はい(20件 83.3%) B どちらともいえない(3件 12.5%) C いいえ(1件 4.2%)
- 2 予定したプログラムの内容を実施することができましたか。

A はい(23件 95.8%) B どちらともいえない(1件 4.2%) C いいえ(0件 0.0%)
- 3 参加生徒のスタート時点でのプログラムの理解はありましたか。

A はい(18件 75.0%) B どちらともいえない(6件 25.0%) C いいえ(0件 0.0%)
- 4 生徒の取り組みはどうでしたか。

A 良い(24件 100.0%) B どちらともいえない(0件 0.0%) C いいえ(0件 0.0%)
- 5 生徒のプログラム終了後の理解はどうでしたか。

A 良い(22件 91.7%) B どちらともいえない(2件 8.3%) C いいえ(0件 0.0%)
- 6 来年度も本事業に参加しますか。

A はい(23件 95.8%) B どちらともいえない(1件 4.2%) C いいえ(0件 0.0%)

受講生派遣高等学校担当者(アンケート実施校 32校 回答 23校)

- 1 本事業は高等学校生の「就労感育成」を目的としています。各プログラムの内容は目的に沿ったものだったと思われませんか。

A はい(22件 95.7%) B どちらともいえない(0件 0.0%) C いいえ(0件 0.0%) D 未回答(1件 4.3%)
- 2 生徒はプログラムを受講した結果、その内容を理解できたと思われませんか。

A はい(21件 91.3%) B どちらともいえない(1件 4.3%) C いいえ(0件 0.0%) D 未回答(1件 4.3%)
- 3 生徒はプログラムを受講した結果、事業の目的である「就労感育成」に役立ったと思われませんか。

A はい(22件 95.7%) B どちらともいえない(1件 4.3%) C いいえ(0件 0.0%)

4 将来的に高等学校の単位取得ができるよう実施期間は最終的に5日間を考えております。何日位が適当だと思われませんか。

A 5日(13件 56.5%) B その他(7件 30.4%) C 未回答(3件 13.0%)

5 次年度も多くの生徒に本事業の目的と、プログラムの内容を案内していただけますか。

A はい(23件 100.0%) B どちらともいえない(0件 0.0%) C いいえ(0件 0.0%)

受講生(プログラム参加者 146名 アンケート回答者 126名)

1 「仕事の学び場」に参加して良かったですか。

A 良い(115件 91.3%) B 普通(9件 7.1%) C 悪い(1件 0.8%) D どちらともいえない(1件 0.8%)

2 「仕事の学び場」に参加して、将来の仕事を考える上で役に立ちましたか。

A はい(122件 96.8%) B いいえ(2件 1.6%) C その他(2件 1.6%)

3 「仕事の学び場」に参加して、将来の仕事を考える上で参考になったことは何ですか。

A 実習(61件 48.4%) B 講義(42件 33.3%) C その他(19件 15.1%) D 未回答(4件 3.2%)

プログラム実施校担当者、受講生派遣高等学校担当者、受講生より意見をいただいております。肯定的な意見がほとんどですが、問題点の指摘も受けております。

②その他

社団法人神奈川県専修学校各種学校協会の先進的な活動があったらからこそ、千葉県においても実施できたものと思っております。深く感謝するものです。

また、高等学校進路指導部会のご支持とご支援があったので実施できたもので、特に受講生募集については多大な努力をいただきました。感謝申し上げます。

高等学校関係者との友好的な関係が今回の事業の成功につながっているものと考えます。それと地道に実施してきており、ようやく3日のカリキュラムでの実施となりました。あまり性急に高望みせず、それぞれのプログラム実施校でご努力いただき築かれたものです。